

I 環境基本計画に沿った 施策と現況



環境ビジョン 1

多様な生態系と共生するまち

わたしたちは、その地域の風土や心身ともに健康的な暮らしを営むために恩恵を与えてくれる多様な自然生態系の一員として存在しています。しかし、わたしたち人間の勝手な自然破壊による影響は、今や地球上のあらゆる生物の多様性だけにとどまらず、生命の危機というところにまで議論が及ぶようになりました。

多様な生態系を育み、二酸化炭素の吸収や水源涵養などの公益的機能としてだけでなく、地域の文化や風土、産業発展の基礎として、あらゆる生命の源である自然環境を保護し、維持・保全しなければならないという意識は世界中で高まり、具体的な活動や研究、開発等が進められています。

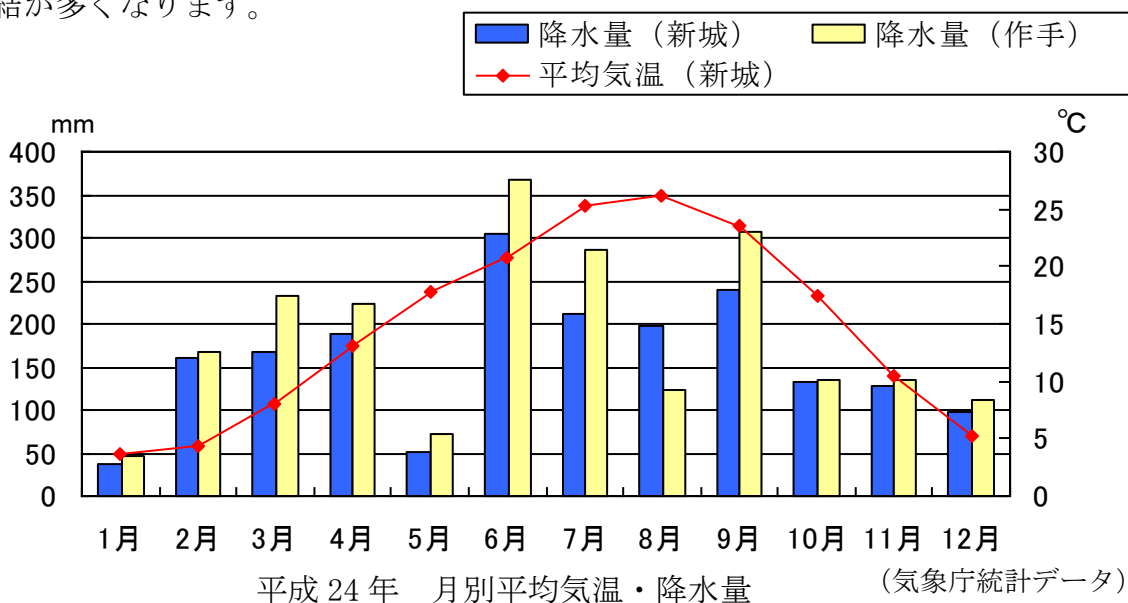
本市には、幸いにもまだ、多種多様な野生生物が生息する豊かな自然環境が市全域にわたり存在しています。

わたしたちは、自然環境を大切にすることを育み、多様な生態系を維持・保全しながら、地域資源を有効に活用する『多様な生態系と共生するまち』を創造し、将来世代に引き継いでいきます。

【自然環境の把握】

1 気候

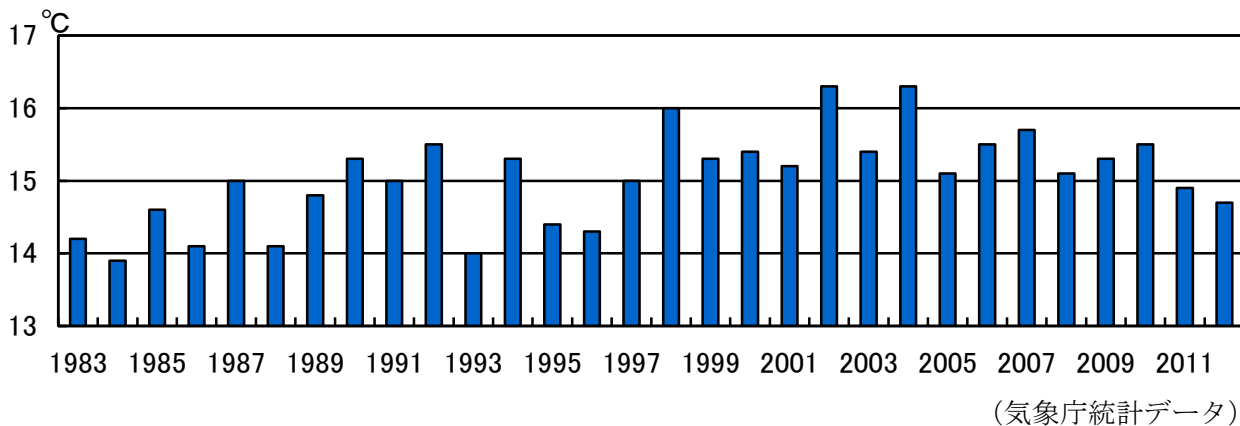
本市は、新城・鳳来地区と作手地区との市域高低差が約500mあります。豊川沿いに位置する新城・鳳来地区の年平均気温は約15℃と比較的暖かな地域ですが、作手地区になると約12℃となり、市域内で2～3℃の気温差になります。また、総雨量も気温と同様に市域に差があります。降雪は、豊川沿いに位置する地域では毎年12月から3月までに数回記録されますが、積雪はほとんどありません。作手地区になると、冬場は積雪や道路の凍結が多くなります。



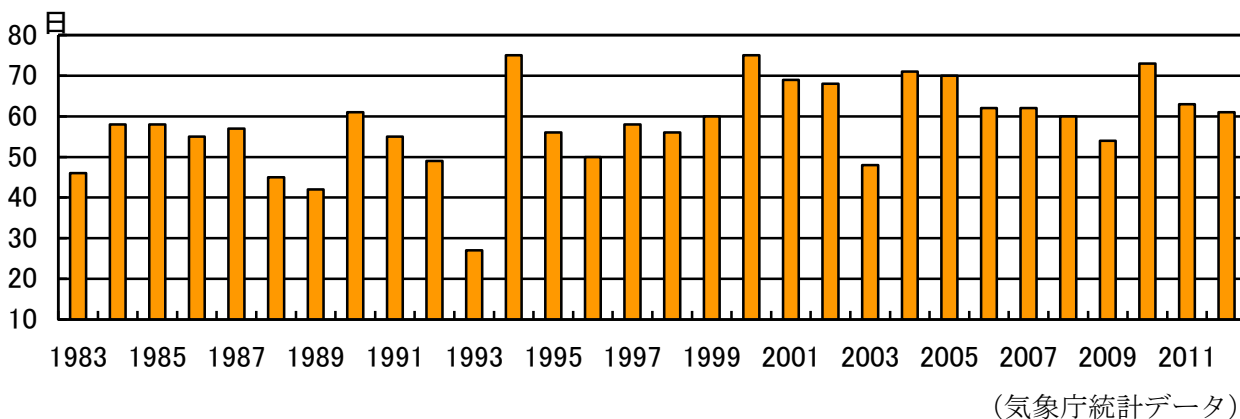
1983年から2012年までの30年間のデータを比較すると、年平均気温は上がったり下がったりをくり返しながらも徐々に気温が上昇傾向にあるのがわかります。特に1993年以降、年平均気温が14℃を下回ることはありません。

また、最高気温30℃以上の「真夏日」日数、最低気温0℃未満の日数においては、直近の10年間と1983～1992年の10年間とを比較してみても、温暖化傾向にあることがわかります。

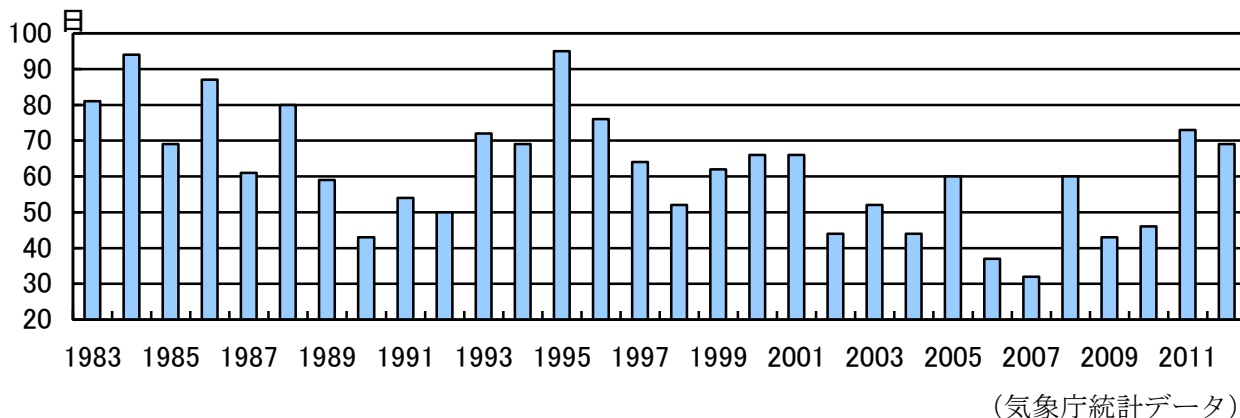
【年平均気温の推移】



【最高気温30℃以上の日数】



【最低気温0℃未満の日数】



※観測点は、2002年以前は旧鳳来町長篠地内にありました。現在は、新城市富沢地内に移設されています。

2 地形・地質

段戸高原を源とする豊川（寒狭川）と宇連ダムを起点とする宇連川が鳳来寺山の東西を挟むように流れています。

この2河川が、長篠の戦いの中心となった長篠城址の下で合流し、豊川本流となり三河湾へと注がれます。

この豊川に沿って日本最長の断層帯「中央構造線」が縦走り、地形と地質を豊川本流右岸の内帯と左岸の外帯に分けています。内帯側の地質は、花崗岩類・領家変成岩類と堆積岩、火山岩類が分布しています。

外帯の地質は、主に緑色片岩や黒色片岩からなる三波川変成岩類で構成されています。平野部は洪積層・沖積層となっています。



作手地区 長ノ山湿原

作手地区は床土が水をにがさない粘土であること、平らな地形で湧き水があり、夏の気温が低く雨の多い気候であることなどの条件から湿原や湿地が点在しています。作手の湿原は、愛知県で唯一、土の酸素が少なく酸性が強いため植物が腐らずに炭のようになるでい炭のある湿原であることから「日本の重要湿地500」に選定されています。

3 植生

本市の行政面積は、83.5%が森林で、尾根沿いを中心に在来の常緑広葉樹林が点在しているものの、森林面積の80%以上はスギやヒノキの人工林となっています。

新城・鳳来地域は、暖地系の植物の多い地域で、特に鳳来寺山は、ホソバシャクナゲの自生地として全国的にも有名です。また、ツガ群落の他、亜高木のヤブツバキ、アラカシ、ツクバネガシや低木層のアオキなどが常緑広葉樹林の群落をつくり、シダ植物以上の高等植物が800余种確認されています。天然のよい植物見本園として、国の名勝および天然記念物に指定されています。

豊川沿いにおいても、比較的自然植生が多く種類も豊富です。特に桜淵公園の蜂の巣岩付近は、石灰岩を含む地質で構成されており、クモノスシダ、ツルデンダなど石灰岩特有の植物が見られます。

作手湿原には、全国的に見ても絶滅の危険性のあるサギソウ、トキソウ、サワラン、ヤチスギランや県内でもこの地域でしか見られないサギスゲ、ミタケスゲ、ヌマクロボスゲ、ツルカミカワスゲ、ミヤマナルコスゲなどの貴重なものがみられます。

4 動物

本市は、豊川・矢作川にそそぐ支流小河川とその周辺の農地および外縁部の山地などほぼ市域全体が豊かな自然環境に恵まれており、多くの動物が生息しています。

種 類	解 説
哺乳類	市内全域の山地を中心にニホンザルをはじめイノシシ、タヌキ、ニホンリス、ノウサギなどの生息が見られます。また、本宮山を中心とする地域にホンシュウシカ（ニホンジカ）が生息し、分布を広げています。山地と一部の社寺林にはムササビの生息が確認されています。
鳥類	豊川やそれに注ぐ小河川を中心に市域外縁部の山地まで全域にわたり多くの野鳥が生息しています。豊川には、オシドリや「水辺の宝石」ともいわれるカワセミが生息し、桜淵公園だけでも年間を通して約80種の野鳥が確認されています。また、鳳来寺山には「仏法僧(ブツボウソウ)」と聞こえる鳴き声で有名なコノハズクの生息が確認されています。
魚類	天然記念物ネコギギをはじめ、ウナギ、アユ、オイカワ、ウグイ、コイ、ホトケドジョウ、メダカなどの生息が確認されています。しかし、市内の沼や池には外来種ブラックバスやブルーギルなどが繁殖していることから在来種の生息が危ぶまれています。
昆虫類	本市には、様々な植生があることから、多くの種類が確認されています。1983年（昭和58年）3月に市の天然記念物に指定されているヒメハルゼミをはじめ、多くのセミ類、トンボ類、チョウ類、また、カブトムシ、ミヤマクワガタ、ノコギリクワガタなどの甲虫類やタガメ、ヒメボタルなどが生息するとされています。しかし、スギやヒノキの植林地が広がり、シイやカシの林に生息するといわれるヒメハルゼミの確認が難しくなっています。その他の昆虫類も開発や農薬などの影響を受けて確認事例が減少傾向にあります。また、外来種による日本固有の生態系への影響が懸念されています。
爬虫類	シマヘビ、ジムグリ、タカチホヘビ、アオダイショウ、ヤマカガシ、マムシなどのヘビ類やニホンイシガメ、ニホンカナヘビ、ニホントカゲが確認されています。最近では、ペットとして飼われていた外来種が自然に放されることにより、在来種の生態系への影響が懸念されています。
両生類	山地の樹上で昆虫やクモ類などを食べ、単独で生活する日本固有のモリアオガエルやヒキガエル、アマガエル、トノサマガエルなどのカエル類やイモリが確認されています。モリアオガエルは、県内でも特にこの地域での生息が確認できます。



1 保全と創出

●豊かな自然の保全

【生命の源としての自然の確保】、【生物生息空間の保全・維持】

●身近な自然の創出

【原風景の回復】

《四谷の千枚田の特徴》

千枚田のある四谷地区は鞍掛山（標高883メートル）の南西斜面に広がる山間集落で、石積みの棚田は、標高220メートル付近から鞍掛山頂に向かって標高420メートル付近まで広がっており、その標高差は約200メートルにもなります。また、棚田は、鞍掛山を水源に持ち、四谷の千枚田を囲むように山あいには大代、大林、身平橋、田の口の4集落で構成されています。

鞍掛山の中腹からこんこんと湧き出てくる水は、毎秒20リットルで潤れることも無く、昔から大雨が降っても濁らず、生活排水の混入もなく、石積み水路と透有感のある清水が三筋の沢として流れ、棚田を潤しています。

傾斜地山林を苦勞して開墾し、構築された石積みは、鞍掛山の転石や山崩れで流出してきた石だけを積んだ棚田であり、また石積みの土地に家屋も建築しており、独特の石垣風景を呈しています。これらの自然石による石積み棚田、鞍掛山、豊富な水が正面から一望できる素晴らしい光景は訪れる人の心を和ませています。



《千枚田の魅力・能力》

山の傾斜地に作られた千枚田は、そのあぜや石垣によって大雨の際の土壌浸食を防ぎ、またその保水機能によって調整池の役割を果たし、水が一気に流水するのを抑える災害防止機能を備えています。

山の斜面や丘陵地に段々と折り重なり、その曲線美を見せる四季折々の棚田の風景の美しさは、はるか太古の昔から日本の原風景として日本人の心に潤いとやすらぎを与えて来ました。

「四谷の千枚田」は大雨でも濁らない湧き水を持ち、おいしい米（棚田米）を生み、四季折々に多彩な表情を見せてくれて奥深い魅力を秘めています。常に水をたたえて豊かな緑を育む田は、様々な動植物にも生息空間を提供しています。「四谷の千枚田」ではモリアオガエルやヤマアカガエルの卵も見られます。

《鞍掛山麓千枚田保存会》

千枚田の保存活動を通じて、農業労働力の確保と農業振興および地域の活性化を図るため組織されたグループです。

活動内容としては耕作放棄地の解消に取り組むとともに「田植え体験」「稲刈り体験」「生き物観察会」など都市と農村の交流も図っています。

この他にも水路、里山の環境整備を行い、美化活動にも取り組んでいます。

◇鞍掛山麓千枚田保存会(平成24年度活動実績)

実施日	活動内容
4月4日(水)	横浜ゴム(株)新城工場新入社員研修によるふれあい広場の整備等:新入社員を含む40人参加
4月17日(火)	簡易トイレ横崩落箇所補修
5月12日(土)	新城高等学校農業クラブの田植え:35人参加
	J A愛知東こども農学校の田植え:65人参加
5月13日(日)	棚田支援グループ「棚田の楽耕」交流活動による田植え
5月26日(土)	方瀬集落生活道等の環境整備活動
	横浜ゴム(株)新城工場植樹行事「第4回千年の杜植樹祭」:5人参加
5月27日(日)	連谷お助け隊との合同による環境整備活動
6月2日(土)	第7回お田植え感謝祭「みんなで灯そう千枚田」:大勢の皆さんで千枚田に火が灯され、美しい空間が創られた(連谷お助け隊主催)
6月5日(火)	鳳来中部小学校校外環境学習活動:5年生児童29人参加
7月2日(月)	作業道補修
7月4日(水)	作業道補修
7月14日(土)	棚田支援グループ「棚田の楽耕」交流活動による田の草刈り
9月15日(土)	棚田支援グループ「棚田の楽耕」交流活動による稲刈り
9月22日(土)	新城高等学校農業クラブの稲刈り:22人参加
9月29日(土)	J A愛知東こども農学校の稲刈り:65人参加
9月30日(日)	千枚田入口付近とふれあい広場の草刈り:38人参加
10月19日(金) 20日(土)	第18回全国棚田(千枚田)サミット(熊本県山都町):5人参加
11月18日(日)	連谷地区地域環境整備活動:真菰・松下・池貝津の地区(連谷お助け隊との合同):60人参加
12月9日(日)	収穫感謝祭「餅つき大会」の開催
2月8日(金)	千枚田施設等改修作業:水車小屋・ぼっとりの屋根葺き替え




鳳来中部小学校の校外環境学習



新城高等学校農業クラブの育農学習

◇豊橋調理製菓専門学校による千枚田活動

実施日	活動内容	
5月10日(木)	生息環境調査、田植え：60人参加	
6月7日(木)	生息環境調査、田の草取り、梅の収穫：23人参加	
9月6日(木)	稲刈り：22人参加	
9月27日(木)	脱穀、成果報告会：51人参加	




《地域の活動》

「連谷お助け隊」

地区内の若者有志が中心となり、平成17年に開催された「全国棚田(千枚田)サミット」の支援組織として発足し、その後、千枚田保存会と協力しながら、環境景観整備、耕作支援、地域活性化活動、都市農村交流活動など地域への幅広い事業をサポートしています。

「連谷小学校」

地元の連谷小学校は複式学級の児童数5名の小さな学校で、約1kmほど先に有名な四谷の千枚田があります。そこで3枚の田を地元の方からお借りし、田起こしから田植え、稲刈り、脱穀等の作業を進め、11月には地域の方々と一緒になって餅つきをし、収穫までの苦勞と喜びを体験しています。平成8年度に始まった活動で、今では「千枚田で生きる」というテーマのもとに、総合的な学習に位置付け、食育にも関連した学習として全校で取り組んでいます。

実施日	活動内容	
4月25日(水)	田起こし	
5月1日(火)	代かき	
5月16日(水)	田植え	
5月26日(土)	親子で「かかし」作り	
6～8月に各月1回ずつ	田の草取り	
9月4日(火)	「かかし」立て	
9月26日(水)	稲刈り、はざかけ	
10月12日(金)	脱穀	
10月24日(水)	もみすり	
11月17日(土)	「ふれあい教室」で餅つき	
12月19日(水)	田起こし	

「みんなで代かき」

【自然に配慮したまちなみ景観・公園づくり】

《新町地区まちづくり協議会》

平成24年度事業の概要

① ひだまりパーク・街路樹「陽光」の管理

陽光桜の手入れを行うとともに新桜通りの清掃を定期的実施し美化に努めました。

ひだまりパークの管理においては、七夕笹飾り、案山子・イルミネーション・門松など、また、花壇には旬の花を飾り付けし、四季の演出を行いました。



② まちなか景観向上のための活動

花のまちづくりの実践として、ガーデニング講習会を開催しました。

新桜通りでは、フラワーポットを継続して道路へ設置し、ひだまりパークに朝顔を栽培し、緑のカーテンを実施しました。

新桜通りふえすたのイベントとして「花灯路」を開催し、JR東新町駅舎に鮮やかな花を植えたプランターを設置しました。

食彩園「やどかり」では、春にワイルドフラワーを栽培して、迷路を作りました。



③ まちづくり憲章の周知

商工会主催の新桜通り夜店に参加し、まちづくり憲章が書かれた「エコうちわ」を来場者に配り、周知を図りました。

④ 協議会活動の輪を広げる

- ・常滑市と半田市を視察

先進的な景観施策を進めている所でもあり、「やきもの散歩道」として歴史的な産業を活かした景観まちづくりを行っている常滑市、同じく地理的条件から歴史的な運河沿いの産業のまちなみ景観に取り組んでいる半田市、この2市へ視察に行きました。

- ・公民館まつりに参加

東新町公民館まつりに参加し、地元の山菜などを使った「かき揚うどん」を地区の人々に振舞い、地域の方との交流を深めました。

⑤ その他

第22回「全国花のまちづくりコンクール」受賞



平成24年度の活動状況

日 時		内 容
4月9日	19:00～	例会 総会について
4月20日	18:30～	総会
5月15日	19:00～	例会 24年度事業について
6月3日	9:00～	作業 新桜通りの花の植え替え・陽光桜の剪定
6月12日	19:30～	例会 夜店参加について
6月24日	9:00～	作業 ひだまりパークの七夕の飾りつけ
7月17日	19:30～	例会 夜店参加・視察について
7月28日	19:00～	新桜通り夜店参加 「まちづくりエコうちわ」を無料配布
8月21日	19:30	例会 視察について
9月11日	19:30～	例会 視察・公民館まつりについて
	-	第22回全国花のまちづくりコンクール団体部門に入選
9月17日	7:00～	視察 常滑市・半田市
10月23日	19:00～	例会 東新町公民館まつりについて
11月11日	9:00～	例会(作業) 新桜通りの花の植え替え
11月18日	10:00～	東新町公民館まつりに参加「やどかりうどん」の振る舞い
12月4日	19:00～	例会 新桜通りふえすたについて
12月5日	13:00～	作業 ひだまりパークに門松設置

日 時		内 容
1月15日	19:00～	例会 新桜通りふえすたについて ガーデニング講習会について
2月12日	19:00～	例会 新桜通りふえすたについて ガーデニング講習会について
2月17日	10:00～	ガーデニング講習会開催
3月10日	9:00～	作業 東新町駅設置用プランターの花植え
3月12日	19:00～	例会 新桜通りふえすた・総会について
3月24日	13:00～	作業 東新町駅にプランターの花を16鉢設置 「花灯路（はなとうろ）」設置
3月24日 ～30日	19:00～ 21:00	「新桜通りふえすた」イベント「花灯路（はなとうろ）」 開催
3月19日	13:00～	東日本大震災における東北復興へ向けた新城高校生徒による メッセージを新桜通りに飾りつけ
3月30日	9:00～	作業 「新桜通りふえすた」準備
3月31日	11:00～	歩行者天国「新桜通りふえすた」開催



2 ふれあい

●自然に親しむ

【自然に親しむ心の醸成】

子どもの頃から日常的に自然に親しみ、ふれあう機会をつくることで、自然を大切に
する心を醸成します。

《園児が鮎とアマゴの稚魚放流》

平成24年5月23日(水)、庭野地区の豊川左岸で、新城幼稚園（現 新城こども園）の園児
が鮎とアマゴの稚魚を放流しました。

園児が放流した鮎の稚魚など約3,000匹は、豊川を元気に遡上^{そじょう}していきました。

川の豊かさや楽しさを知ってもらおうと、豊川上漁協と市観光協会が、毎年鮎釣り解禁日を控えた時期に、地元の園児を招待して行っています。

園児たちは素足で浅瀬に入ると、バケツの中の魚を川へ放し、魚が元気に泳ぎだす姿に大きな歓声をあげていました。



《親子せせらぎエリア》

市最大の特徴である自然環境は、住民の居住空間そのものであり、これを市民共有の財産として、良好な状態で将来に引き継いでいかななくてはなりません。

市教育委員会では、子どもの頃から、本市のすばらしい自然にふれて、ふるさとのよさを体感できるよう、「親子せせらぎエリア」を地元の協力のもとに設けました。



開設期間：	平成24年8月1日(水)
	～8月16日(木)
開設時間：	午前10時～午後4時
開設日数：	16日間(内、中止2日)
開設場所：	作手・善夫地区 菅沼川
利用者数：	大人 337人
	子ども 333人
	合計 670人